

# はじめに

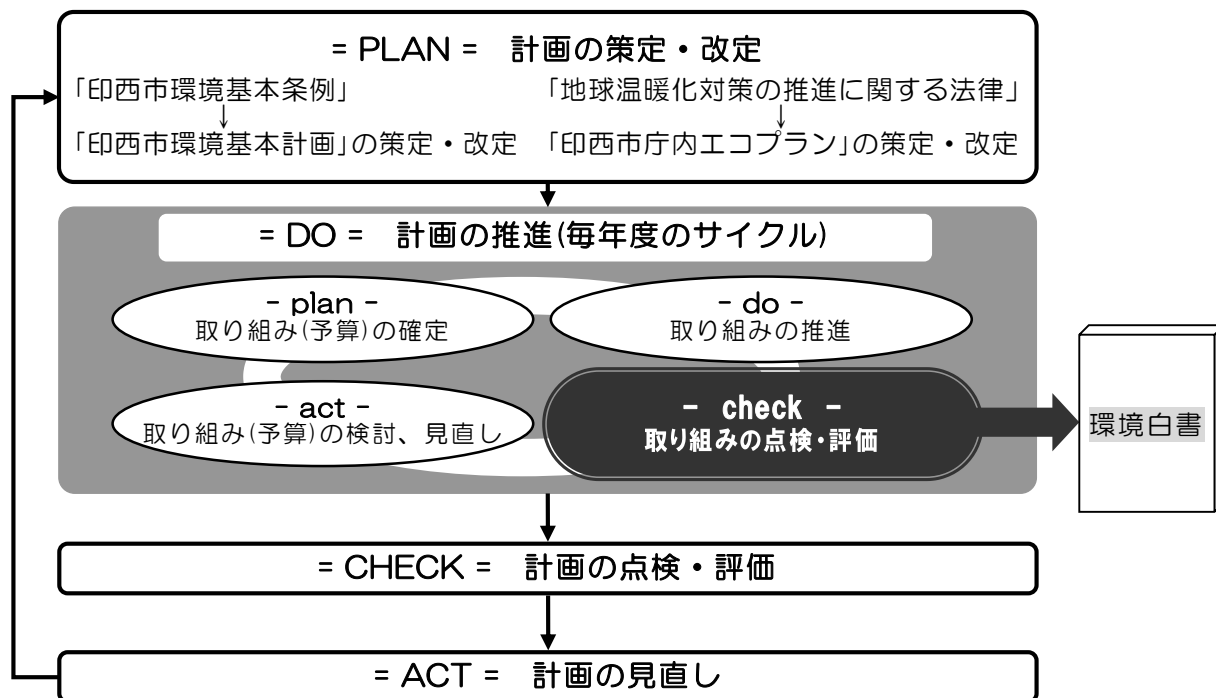
## 1 印西市環境白書作成の趣旨

印西市は、平成 25 年 3 月に印西市環境基本計画※を新たに策定しました。環境基本計画は、印西市環境基本条例※に基づき、将来のより良い環境づくりを目指すため、施策を総合的かつ計画的に進めるための計画です。また、平成 30 年度より第 4 次印西市市内エコプラン※を進めています。市内エコプランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律※」に基づき、市内における地球温暖化対策を効果的に進めるための計画です。

環境基本計画と市内エコプランは、取り組みの進捗状況を年度ごとに点検・評価し、その結果を次の取り組みにフィードバックする plan・do・check・act を繰り返す仕組み (pdca サイクル) によって、進行管理を行います。

印西市環境白書は、環境基本計画と市内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様にご覧いただくものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

### 《 環境白書の位置づけ 》



本文中、※印の付いている用語の解説は、資料編 P.45 用語解説をご覧ください。

## 2 印西市環境基本計画

印西市は、みどり豊かな農地や樹林地が広がり、利根川や手賀沼・印旛沼などの多くの水辺環境に恵まれた自然豊かな側面と、千葉ニュータウンをはじめとした「街」としての機能を併せ持つ環境であることが特徴です。

市では、豊かな環境を将来にわたって守り育てていくため、平成 22 年 3 月の合併後に新たな印西市として、環境基本計画を平成 25 年 3 月に策定しました。

印西市を取り巻く環境の現状と課題をふまえ、印西市が目指す将来環境像を『「ひと まち 自然」が調和し 豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい』と定め、これを実現するために 5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」を設定しました。これらの方針に基づき、環境保全と創造に向けた行動を展開していくほか、重点プロジェクトとして「地域で里山\*を守り・育むしくみづくり」、「地域ぐるみによるごみ減量・リサイクル活動の展開」、「再生可能エネルギー\*・省エネルギー化への推進」に取り組んでいきます。

本環境白書は、5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」に沿って記載しています。

### 《 将来環境像と施策体系 》

<b>将来環境像</b> <b>「ひと まち 自然」が調和し</b> <b>豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい</b>	<b>基本目標 1</b> <b>【自然環境】</b>	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 緑や水辺を守り育てよう (2) 生きものと共存しよう
	<b>基本目標 2</b> <b>【生活環境】</b>	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 生活環境に不安がないまちを目指そう (2) 有害物質の排出・侵入を防ごう
	<b>基本目標 3</b> <b>【都市環境】</b>	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 快適で住みよいまちにしよう (2) 歴史・文化が感じられるまちにしよう
	<b>基本目標 4</b> <b>【地球環境】</b>	低炭素社会*の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 地球にやさしいまちをつくろう (2) 資源循環型のライフスタイルを実践しよう
	<b>基本目標 5</b> <b>【人づくり】</b>	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して 取 り 組 み 方 針 (1) 環境を考え行動をする人を育てよう (2) 環境配慮行動の実践を促すしくみをつくろう





### 3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、将来環境像の実現と目標の達成を目指すために、施策の進捗状況を計る「環境指標」を設定しています。

10の取り組み方針ごとに環境指標が設定されており、計画の目標値や基準年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。

平成30年度版の環境白書では、平成29年度の実績値をとりまとめ、基準年度（平成23年度）の数値と最終の目標年度である平成33年度の目標と比較し評価を行いました。最終目標に掲げた目標が達成できるように今後も取り組んでいきます。

#### 《 環境指標の評価の見方 》

評価	評価内容
	目標値を達成することができました。
	基準年度と比較して、目標値に近づいています。
	基準年度と比較して、変化がありません。
	基準年度と比較しても目標値に近づいていません。
—	現状値の把握をしていません。

環境基本計画は、印西市総合計画を踏まえ策定していくという観点から、平成25年度から平成33年度までの9年間で計画の期間として設定しています。

計画の推進にあたっては、毎年、進捗状況を点検するとともに、社会経済情勢の変化や市の制度の整備等の進み具合に合わせて、必要に応じて見直しを行うこととします。

#### 《 印西市環境基本計画の計画期間 》

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
総合計画	印西市基本構想									
	第1次基本計画				第2次基本計画					
環境基本計画	印西市環境基本計画									
			必要に応じて見直し					見直し		次期計画

■ 環境指標（基本目標 1（1）～ 2（1））

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23 年度現状)	H29 年度実績	最終目標 (H33 年度)	評価
1 自然環境	(1)	里山保全活動 団体数	11 団体	12 団体	現状以上	
		農振農用地※面積	3,100 ha	3,103 ha	現状以上	
		遊休農地※面積	465 ha	459 ha	現状以下	
		認定農業者数	46 経営体	57 経営体	現状以上	
		市民農園区画数 (民間を含む)	476 区画	430 区画	現状以上	
	(2)	生きものの生息・生育 種数	植物 803 種 動物 539 種	—	現状維持	—
2 生活環境	(1)	二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )※ 濃度	0.032 ppm※	0.027 ppm	千葉県環境目標 値(0.04 ppm)以下 を維持	
		浮遊粒子状物質 (SPM)※濃度	0.064 mg/m <sup>3</sup>	0.042 mg/m <sup>3</sup>	環境基準※ (0.10 mg/m <sup>3</sup> )以下 を維持	
		亀成川の BOD※濃度	1.5 mg/L	1.8 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	
		神崎川の BOD 濃度	1.4 mg/L	1.3 mg/L	環境基準 (2 mg/L) 以下を維持	
		師戸川の BOD 濃度	4.9 mg/L	6.8 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	
		下水道普及率※	80.3 %	84.9 %	83.8 %	
		下水道整備率※	82.4 %	95.9 %	93.6 %	
		合併処理浄化槽※ 普及率	77.0 %	80.9 %	89.0 %	
		合併処理浄化槽設置 基数(補助対象分累計)	2,830 基	3,384 基	3,526 基	
		土壌の汚染に係る 環境基準	調査地点全項目(28 項目)基準を達成	全調査地点(3 地点) で全項目(28 項目) 基準を達成	全地点・全項目の 基準達成を維持	
		地下水の水質汚濁に 係る環境基準	調査地点全項目(29 項目)基準を達成	調査地点 5 地点のう ち 3 地点で基準を 達成	全地点・全項目の 基準達成を維持	
		道路交通騒音 測定値	全調査地点で環境 基準以下を達成	調査地点 5 地点のう ち 4 地点で基準を 達成	全調査地点で環境 基準以下を維持	









備考) 1-(2)「生きものの生息・生育種数」については、自然環境調査を 5 年に 1 回程度実施することとし、定期的に現状を把握しています。直近の自然環境調査は平成 27 年度に実施しました。

■ 環境指標（基本目標 2（2）～ 3（2））

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23年度現状)	H29年度実績	最終目標 (H33年度)	評価
2 生活環境	(2)	ダイオキシン類※ 大気環境濃度	印西市役所 0.058 pg-TEQ*/m <sup>3</sup> 印西高花測定局 0.040 pg-TEQ*/m <sup>3</sup>	印西市役所 0.037 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 印西高花測定局 0.039 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 印旛公民館 0.028 pg-TEQ/m <sup>3</sup>	0.6 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下 を維持(環境基準)	
		印西クリーンセンター 煙突出口におけるダイ オキシン類測定値	1号炉 0.11 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 2号炉 0.035 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup>	1号炉 0.023ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 2号炉 0.046 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup>	1 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 以下を 維持(排出基準)	
			3号炉 0.017 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup>	3号炉 0.013 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup>	0.5 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 以下 を維持(排出基準)	
3 都市環境	(1)	不法投棄件数 (うち市民からの通報 件数)	498 件 (89 件)	126 件 (51 件)	50 件 (31 件)	
		ゴミゼロ運動※参加団 体数	218 団体	185 団体	256 団体	
		クリーン印西推進運動※ 参加団体数	165 団体	176 団体	196 団体	
		市民 1 人当たりの都 市公園面積	15.53 m <sup>2</sup>	16.96m <sup>2</sup>	現状以上	
		市民と協働で管理して いる公園数	16 箇所	27 箇所	28 箇所以上	
		緑地面積の割合※	55.3 %	56.4 %	55.4 %	
	(2)	指定文化財件数	47 件	49 件	53 件	
		歴史民俗資料館への 来館者数	885 人	1,228 人	1,300 人	
		市史刊行物の発行数	48 冊	56 冊	54 冊	
		市史講座の受講者数	70 人	108 人	120 人	

備考) 2-(2)「印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。なお、3号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が 0.5 ng-TEQ/Nm<sup>3</sup> 以下と定められています。

■ 環境指標（基本目標4(1)～5(2)）

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23年度現状)	H29年度実績	最終目標 (H33年度)	評価
4 地球環境	(1)	コミュニティバス利用者数	190,773人	246,424人	現状以上	
		市内駅の1日平均乗車人員	30,676人(H22)	28,530人	現状以上	
		1人当たりの二酸化炭素※排出量	4.00 t-CO <sub>2</sub> /年(H22)	3.74 t-CO <sub>2</sub> /年(H28)	現状以下	
		太陽光発電システム設置件数 (補助対象分累計)	529件	1,808件	2,400件	
		太陽熱利用システム設置件数 (補助対象分累計)	34件	55件	140件	
	(2)	1人1日当たりのごみ排出量	887g	863g	696g	
		総資源化率※	21%	18.8%	30%	
5 人づくり	(1)	環境講座・イベント等の開催回数	15回	30回	18回以上	
	(2)	環境情報の提供回数	24回	24回	24回を維持	
		環境活動団体数	29団体	23団体	30団体以上	

備考) 4-(1)「1人当たりの二酸化炭素排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編 P.44 に示すとおりです。

## 4 環境の現状と課題

### ■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

「基本目標 1」は、印西市の豊かな里山の緑や水辺を守り、自然環境を保全し共生していくための施策群で、環境指標は 6 項目を設定しています。平成 29 年度は、最終目標達成が 4 項目（66%）、最終目標に近づいていないものが 1 項目（17%）、調査未実施のため現状が把握できなかったものが 1 項目（17%）でした。

印西市は、市街地周辺に豊かな里山や水辺が残り、自然を身近に感じられる環境に恵まれています。市では、自然と共生するまちを将来にわたって残していくために、自然環境調査等による現状把握を進めるとともに、緑や水辺とのふれあいの機会を充実し、自然環境保全の意識の向上に努めていきます。

### ■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 2」は、安心・安全に暮らせる環境を守っていくための施策群で、環境指標は 15 項目を設定しています。平成 29 年度は、最終目標達成は 10 項目（67%）、基準年度に比べて目標値に近づいているものが 2 項目（13%）、最終目標に近づいていないものが 3 項目（20%）でした。

安心・安全な環境を確保するために、市では定期的に大気質や水質等の監視・測定を行っています。下水道普及率と下水道整備率は目標を達成できたものの、師戸川の水質(BOD)は平成 28 年度より悪化したほか、地下水の水質汚濁及び道路交通騒音についても環境基準に達していない地点があり、今後も調査結果を注視していく必要があります。また、大気質など広域的な環境課題には、周辺市町や県との連携を図りながら、広報・ホームページ等を通じて、市民・事業者・市の情報の共有化にも取り組んでいきます。

### ■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

「基本目標 3」は、暮らしを豊かで快適な環境にするための施策群で、環境指標は 10 項目を設定しています。平成 29 年度は、最終目標達成が 3 項目（30%）、基準年度に比べて目標値に近づいているものが 6 項目（60%）、最終目標に近づいていないものが 1 項目（10%）でした。

不法投棄件数は基準年度に比べて目標値に近づいていますが、平成 28 年度と比べると 35 件多い 126 件と大幅に増加しました。

市街地の美化や緑化、まちの景観などは、生活に関わる身近な環境課題として特に関心が高い分野です。「快適なまち」の実現には、市だけでなく市民・事業者との協働が不可欠なため、協働活動の場や制度の充実などが求められています。

## ■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

### 地球環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 4」は、省エネ・省資源、ごみの減量、再生可能エネルギーの普及などにより地球環境への負荷を減らすための施策群で、環境指標は 7 項目を設定しています。平成 29 年度は、最終目標達成が 2 項目（29%）、基準年度に比べて目標値に近づいているものが 3 項目（42%）、最終目標に近づいていないものが 2 項目（29%）でした。

低炭素社会・循環型社会\*を実現するためには、地球環境への負荷の少ないライフスタイルへの変革が求められます。また、ごみに関する指標である「総資源化率」も最終目標に近づいておらず、取り組みを強化していく必要があります。

## ■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

### みんなで環境を育てるまちを目指して

「基本目標 5」は、環境保全への意識を高め、環境に配慮し行動できる人を育成するための施策群で、環境指標は 3 項目を設定しています。平成 29 年度は、最終目標達成が 2 項目（67%）、最終目標に近づいていないものが 1 項目（33%）でした。

市で把握している環境活動団体数は、構成員の高齢化の影響によって近年減少傾向にあり、最終目標に近づいていません。

市では、環境美化活動や環境学習会、その他各種イベントなど、市民が参加・学習する機会の提供に努めてきました。今後も、環境行動指針の普及啓発などを通じて、環境配慮行動の定着を図っていきます。

## ■ 平成 29 年度のまとめ

平成 29 年度における環境指標全 41 項目の状況は、平成 33 年度の最終目標を既に達成した項目が 21 項目（51%）、基準年度に比べて目標値に近づいているものが 11 項目（27%）、最終目標に近づいていないものが 8 項目（20%）、現状を把握していないものが 1 項目（2%）でした。

環境基準は概ね達成されており、下水道整備率や下水道普及率の目標達成など、全体として市の環境の状況は良好でした。一方で、市民農園区画数の減少や師戸川の BOD 濃度の悪化など目標値に近づいていない項目、さらに合併処理浄化槽設置基数や太陽光発電システム設置件数など年々改善傾向にあるものの最終目標を達成していない項目は、今後も取り組みを推進する必要があります。

市民・事業者・市が協働し、みんなで環境問題の解決に取り組むことができるよう、普及啓発、取り組みの場や学習機会の提供に努めます。





## 5 環境審議会委員からの意見・提案

平成 30 年度版環境白書について、環境審議会委員から下記のとおり意見・提案がありました。

### ■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 限界を超えて増える有害鳥獣について、「生きものと共存しよう」を実践しながらも、住民の脅威や農作物被害減少のため、総合的な野生動物管理を検討されたい。
- 里山保全については、生物多様性と山林の荒廃防止の観点から、森林や里山の適切な保管管理や維持管理とともに、その環境教育に努められたい。
- 都市としての成長、発展とともに、豊かな自然を有しているという印西市の魅力を引き続き発信されたい。

### ■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 師戸川を中心とした河川や湖沼の水質改善のため、下水道の整備や高度処理型合併処理浄化槽導入の更なる推進と近隣市町村との連携を検討されたい。
- 生活道路について、歩行者の安全確保と車両の通行による排出ガス・騒音・振動抑制のため、「ゾーン 30」などの適用などを関係機関と連携し推進されたい。
- 公園や道路などの植栽に散布する薬剤については必要最小限とし、そのアレルギー対策に配慮されたい。

### ■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- 「印西市景観計画」における具体策の検討や「里山マップ」の活用によって、印西市の自然景観とともに貴重な文化財の魅力の発信に努められたい。
- 「クリーンいんざい」などの活動とともに、ポイ捨て禁止などの掲示板の設置やマナー向上の啓発に努められたい。

### ■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

#### 地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- ごみの減量化・資源化の推進に向け、具体的施策を推進されたい。特にプラスチックについては、海洋汚染の原因になることから、普及・啓発活動にも努められたい。
- 温室効果ガス総排出量抑制のため、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの活用の情報発信に努められたい。なお、太陽光発電設備や温水器等の補助を進めるとともに、景観や自然環境と調和させることを配慮されたい。
- 地球環境への負荷を軽減させるために、「ふれあいバス」の利便性の向上や公共施設や防犯灯、街灯などの LED 化についても推進されたい。

### ■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

#### みんなで環境を育てるまちを目指して

- 社会全体で、子どもたちに「命の尊さ」を教えるとともに、各小中学校での環境学習の取り組みが、地域に活かされるように、提言の機会を設け、さらなる人材育成に努められたい。
- 市民の環境意識の向上のため、環境フェスタや公民館まつりなどにおける環境学習の充実と学校教育や社会教育の連携を充実されたい。

## 6 環境推進市民会議委員からの意見・提案

平成 30 年度版環境白書について、環境推進市民会議委員から下記のとおり意見・提案がありました。

### ■ 基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 里山、竹林、耕作放棄地に対する市民の活動を支援する補助金制度の新設等を検討し、里山・緑地保全や希少在来動植物の保護に努められたい。
- ブランド力のある農産物の生産と後継者育成とともに、地産地消を啓発し、地域の活性化と農地の保全を図られたい。
- 猟友会への支援など、イノシシ等の有害鳥獣の捕獲・駆除の強化に努められたい。
- 生物多様性の観点から、市内における希少生物の保護や特定外来生物の拡散防止に向けた取り組みを市民や学校関係者に向けて発信されたい。
- 印旛沼や手賀沼など水域環境の保全を目的とした生物多様性戦略を策定されたい。

### ■ 基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 下水道の整備、高度処理型合併浄化槽の普及と水質改善に努められたい。
- ヤードについては定期的な巡回・訪問・指導を実施されたい。
- 環境変化に合わせ市独自の調査・観測地点の追加とその結果の公表に努められたい。

### ■ 基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- ごみのポイ捨てや不法投棄などを防止するため、警察や自治会との連携や、監視カメラ設置、巡回数を増やすなどの対策を強化されたい。
- 「海洋プラスチック問題」の主な原因となるごみのポイ捨てや不法投棄の他、ペットの糞放置について、市民や飼い主への注意喚起に努められたい。
- 市内の交通インフラ格差解消のため、「ふれあいバス」のルートや本数の拡大拡充や、電車運賃の値下げなど公共交通機関の充実を図られたい。
- ゴミゼロ運動参加団体数の増加を図るため、参加を促す仕組み作りを検討されたい。

### ■ 基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

#### 地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- 印西市全体の温室効果ガス削減計画（削減目標）を作成し、市全体で低炭素化社会の実現に取り組まれたい。
- 一層のごみの分別、減量化の推進を図り循環型社会の構築に努められたい。
- プラスチック製レジ袋の使用を禁止する条例の制定を検討されたい。
- 省エネ型ライフスタイルを実現するために、エコバックや環境家計簿、地球温暖化対策のための国民運動（COOL CHOICE）などの普及促進に努められたい。

### ■ 基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

#### みんなで環境を育てるまちを目指して

- 幅広い年齢層への環境講座・イベントなどをさらに促進されたい。
- 小学校・中学校の環境教育の機会を増やし、環境意識の向上に努められたい。
- 環境保全活動推進のために、シルバー世代が活躍できる場の提供や施策の改正などを検討されたい。